

熊本地震復興支援 お釈迦まつり



(写真左) 志布志市出身で熊本の学校に進学した学生等が義援金への協力を呼びかけました。

(写真下) 前夜祭を彩った竹灯籠の幻想的な光。熊本地震被災地への思いが込められた希望の光です。



(写真上) 毎年関西から帰郷して参加される関西志布志会の皆さん。

(写真下) 誕生仏に甘茶をかけて洗い清める「甘茶かけ」は、毎年大勢の来場者が行います。



(写真上) ステージでの子どもカラオケ。司会の野口たくおさんも盛り上げてくれました。

(写真左) まつりの会場は、多くの人で賑わいました。

(写真下) 金剛寺境内では野点のお茶が振る舞われました。



(写真上) 2015 歌唱王の坪田俊一さんもパレードに参加。ステージでも日本一の歌声を披露してくれました。

(写真右) 志布志自慢のグルメ・スイーツを集めたグルメストリートは大人気。

(写真右下) 境内を花の香に包んだ花御堂。

(写真下) この時期の志布志の味覚せんざらも振る舞われました。



お釈迦まつりは、仏教を開いたお釈迦様が誕生した4月8日を祝う行事です。正式には灌仏会また、仏生会や降誕祭、花祭りとも呼ばれています。お祭りでは、お釈迦様の誕生直後の姿といわれる誕生仏の像に甘茶をかけて洗い清めます。この風習は、もともと、香水（仏様に供える水）をかけていたものが、江戸時代の頃からは甘茶をかけるように代わったものです。

志布志では、奈良時代の創建と伝えられ、観音菩薩を祭ることから「おかのんざあ」と呼ばれる宝満寺を中心にお祭りが開催され、「しがつようか（4月8日）」がなまり「しがつじよか」と呼ばれています。古くは江戸時代から、まちを挙げて盛大にお祝いされていたようです。

おまつりでは花嫁を馬の背に乗せ花婿が手綱を引くシャンシャン馬の行列が行われます。現在も華やかに行われているこの風習は昔からのもので、当時から若夫婦が安産祈願に訪れていたようです。

今年のお釈迦まつりは4月28日と29日に盛大に開催されました。宝満寺公園を中心とするまつり会場は、延べ8万人の来場者で大いに賑わいました。

4月28日と29日、伝統のお釈迦まつりが開催され、多数の来場者で賑わいました。

28日に宝満寺跡公園で行われた前夜祭は、前日までの雨も上がり、会場は竹灯籠の光が揺らめく幻想的な雰囲気になりました。

29日のお釈迦まつり本祭は、絶好のまつり日和となり、まつり会場には多くの来場者が訪れました。

宝満寺、商店街の各ステージでは吉本興業の鹿兒島県住みます芸人「突撃パイナップル」のお笑いライブやキッズダンスなどが行われました。また、1.5キロメートルにわたる通りに様々なお店が並んだ志布志千軒まち大市、志布志自慢のグルメやスイーツを集めたグルメストリートなどが来場者を楽しませました。

威勢の良い踊りや愛らしい稚児行列など約1000人からなるパレードは、今年も治道の観客を楽しませてくれました。

そして、まつり一番の見どころ「シャンシャン馬」では、艶やかな花嫁を乗せた馬の手綱を涼々しい花婿が引き、シャンシャンと鈴を鳴らしながらゆつくりと歩みを進める姿に治道からは歓声が上がりました。

晴天に恵まれた今年のお釈迦まつりは、例年以上の人出と盛り上がりを見せ、その幕を閉じました。